

平成25年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	知識・技能を活用する力の伸長を図る小学生の育成 ～朝・夕に学力を高める学力向上事業～
事業実施代表者名	教務主任 坂本哲昭
実施附属学校名	旭川小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>全国学力・学習状況調査では、本道が全国で最下位ランクに位置付けられており、学力の向上が公立学校の大きな課題となっている。附属学校園の存在意義を一層高めていくためには、公立学校から目標とされるような学力向上の取組を行い、具体的に成果を上げる必要がある。そこで、本校児童の学力の実態を踏まえ、始業前や放課後、長期休業等に学力を伸長させる個別の取組を推進した。</p> <p>具体的には、「①朝自習時間「続ける活動」(8:15～8:30)に非常勤講師が各教室に入り、国語や算数等のプリント問題等について児童の質問に答える。②非常勤講師が図書室において、中休み(10:20～10:35)・昼休み(13:05～13:20)に国語や算数の個別指導をする。③非常勤講師が教室において、放課後(15:15～16:00)に国語や算数の個別指導をする。④非常勤講師が本校や附属旭川中学校における国語力検定、漢字検定、算数数学検定等での引率、試験官、事務業務に当たる。」等に取り組んだ。</p> <p>朝自習時間「続ける活動」の時間について記す。6年については、中学進学に向けて学習意欲が高まるとともに、理解が不十分だった点や誤りやすい点について補うことができた。2～5年については、各単元の学習の定着や各学期のまとめの定着を図るとともに、学力テスト(2/12, 国・算数)に向けてのプリント問題や解答・解説等を実施した。とりわけ5年については、全国学力・学習状況調査(4/22 実施予定)に向けてのプリント問題や解答・解説等を実施した。</p> <p>国語力検定、漢字検定、算数数学検定において、各検定とも多数の合格者を出した。1年生から発達段階に応じて検定合格という明確な目標をもち、意欲的に練習問題に取り組む姿が見られた。保護者のニーズも感じられた。</p> <p>夏期・冬季長期休業中の「学力アップ特別教室」は諸般の事情により、実施できなかった。春休み中の実施を検討している。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>【成果】授業中だけでは対応できない学力差、個性差、興味・関心の違い等について個別に対応することにより、学力の伸長を図ることができた。始業前や放課後、長期休業等に学力を伸長させる取組は、公立学校ではほとんど推進されていない。授業時間外の実践を多様に試行し成果を敷衍することは、本学校園の存続に大きな影響を与える。具体的には、各教科等の活用する力（応用力）を高める学習の指導、各教科等の基礎的・基本的な知識・技能の習得を補う学習の指導、国語力検定、漢字検定、算数数学検定に取り組み、多数の合格者を出し、学力とともに学習意欲が高まった。本校がこれらの検定への取組を支援していることや、講師が一人一人の学習状況に応じて指導をしていることは、入学募集説明会(11/10)で説明した。新1年生選考の倍率が、平成25年度の1倍から平成26年度の1.2倍へと上昇した。この事業の成果がその背景の一つとして考えられる。また、我が子の学力について不安を抱えている保護者のニーズに応えることができたと考えている。</p> <p>【課題】早朝の時間帯に勤務できる講師が、なかなか見付からない期間があった。また、夏期・冬季の長期休業中には、学校事情や講師が見付からないなどの事情から、実施できなかった。今後の本事業の実施については、これらの課題解決を図る必要がある。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>教員免許をもつ退職教員や大学院生の確保に取り組む。また、勤務できる期間や時間帯について、情報を収集する。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>学校便り「ひこばえ」の中で、本事業の成果と次年度も継続した取組をすることに触れる予定である。</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。